

生誕
140年
記念

石崎光瑤

ISHIZAKI Koyo

The Elegant World of Flower and Bird Paintings

【基本情報】

展覧会名: 生誕 140 年記念 石崎光瑤

会 期: 令和 7 年 (2025) 1 月 25 日 (土) ~ 3 月 23 日 (日)

会 場: 静岡県立美術館 (〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-2)

休 館 日: 毎週月曜日 (2 月 24 日[月・振休]は開館し、翌日休館)

開 館 時 間: 10:00~17:30 (展示室への入室は 17:00 まで)

観 覧 料: 一般 1,400 円 (1,200 円)、70 歳以上 700 円 (600 円)、大学生以下無料

※ () 内は前売および 20 名以上の団体料金。

※ 収蔵品展、ロダン館もあわせてご覧いただけます。

※ 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と付添者 1 名は無料。

主 催: 静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送

企画協力: 毎日新聞社

※ 会期中、一部展示替えがあります。前期 1 月 25 日~2 月 24 日 / 後期 2 月 26 日~3 月 23 日

【概要】

石崎光瑤(いしざき・こうよう、1884~1947)は、明治後期から昭和前期にかけて京都を中心に活躍し、独自性に富む華麗な花鳥画を数多く残した画家です。

現在の富山県南砺市に生まれた光瑤は、金沢に滞在していた江戸琳派の絵師・山本光一に師事、19 歳で京都に出ると、日本画の大家である竹内栖鳳に入門しました。大正 5 年 (1916) から翌年にかけてインドを旅したことを機に、豊麗な色彩が溢れる濃密な花鳥画を打ち立てました。

光瑤は、早くから伊藤若冲に関心を持ち、大正期における若冲再発見の先駆けであったことでも知られます。また、狩野派をはじめ広く古画を学習して、自身の制作に活かすなど、古画のエッセンスを近代花鳥画へと受け継ぎ、花開かせた画家としても注目されます。

本展では、生誕 140 年の節目に、光瑤の生まれ故郷にある南砺市福光美術館のコレクションを中心に、初期から晩年までの代表作を一挙公開し、光瑤の画業の全貌をご紹介します。



【展覧会の見どころ】

■北陸以外では初！全国規模で開催する初めての大回顧展です。

■初期～晩年の代表作が勢揃いする絢爛豪華な展示は見ごたえ十分!! 代表作《^{きんろう}燦雨》《^{びやくけ}白孔雀》
(いずれも六曲一双屏風、図1・2) もご覧いただけます。



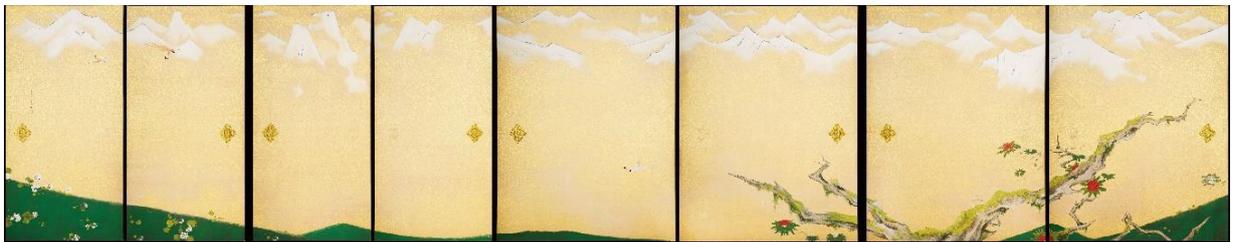
図1 《燦雨》1919年 南砺市立福光美術館蔵



図2 《白孔雀》1922年 大阪中之島美術館蔵

■金剛峯寺奥殿襖絵 20面 (通常非公開) を特別展示！ そのうち《^{せつりやう}雪嶺》(図4) は寺外初公開
です。(会期中展示替えあり)

右：図3 金剛峯寺奥殿〈虹雉の間〉
※襖絵は石崎光瑤《虹雉》1934年
金剛峯寺蔵 (前期展示)
下：図4 奥殿襖絵《雪嶺》1935年
金剛峯寺蔵 (後期展示)



■石崎光瑤が伊藤若冲に憧れていたことにちなみ、静岡県立美術館が所蔵する伊藤若冲《樹花鳥獸図屏風》を特別展示します。時代を超えた競演をお見逃しなく！(展示期間 1/24-3/23)



(関連展示) 伊藤若冲《樹花鳥獸図屏風》18世紀後半 静岡県立美術館蔵

【展覧会構成】

第1章 画学修業と登山

金沢で江戸琳派の絵師・山本光一に学んだ後、光瑤は 19 歳で京都に出て竹内栖鳳に入門、新たな刺激を受けながら絵画修行に取り組みます。一時富山に戻ると登山に没頭し、民間パーティーとして初めて劔岳登頂に成功するなど、登山家としても活動しました。高山植物や山容の写生に、この頃の光瑤の足跡を見ることができます。やがて京都に戻ると栖鳳塾で画技に磨きをかけ、大正 3 年（1914）の第 8 回文展に出品した《^{がけい}覚》（図 6）で褒状を受賞、若手画家の注目株として一目置かれるようになっていきました。



図 6 《覚》1914 年 南砺市立福光美術館蔵

図 5 《白山の霊華》1910 年頃
南砺市立福光美術館蔵

第2章 インドへの旅、新しい日本画へ

大正 5 年（1916）11 月から約 9 か月間、光瑤はインドを旅行しました。その目的は 3 つ。熱帯の美しい動植物を見ること、古代建築や美術に触れること、そしてヒマラヤの山々を望むことでした。帰国後の大正 7 年（1918）、その成果として熱帯花鳥をテーマとした《^{なつこくけんしゅん}熱国妍春》を第 12 回文展に発表、特選となり、翌年には第 1 回帝展に《燦雨》（図 1）を出品、2 年連続の官展特選という快挙を成し遂げ、画壇にその地位を確立したのです。光瑤の真骨頂というべきインド主題の濃密な花鳥画、《燦雨》《白孔雀》（1922 年、図 2）をはじめとする華麗な作品群をご堪能ください。



図 7 《雪》1920 年 南砺市立福光美術館蔵

第3章 深まる絵画表現

光瑤は日本・東洋の古画を熱心に研究しました。特に伊藤若冲に関心を寄せ、若冲晩年の傑作《仙人掌群鶏図襖（さぼてんぐんけいずふすま）》を再発見して雑誌で紹介するなど、その顕彰に大きな役割を果たしました。大正 11 年（1922）から翌年にかけてはヨーロッパ各地をめぐり、さまざまな西洋絵画に接してまいります。東西の絵画研究を通して、光瑤の作風は、絢爛豪華な色彩美の世界から、より深みのある洗練された画風へと変化していきました。通常非公開の金剛峯寺奥殿襖絵《虹雉》12 面（1934 年、図 3、前期展示）、《雪嶺》^{せつりやう}8 面（1935 年、図 4、後期展示）は、この時期の光瑤の代表作です。



図 8 《鶏之図（若冲の模写）》1926 年 富山市郷土博物館蔵
（左幅：前期展示 右幅：後期展示）

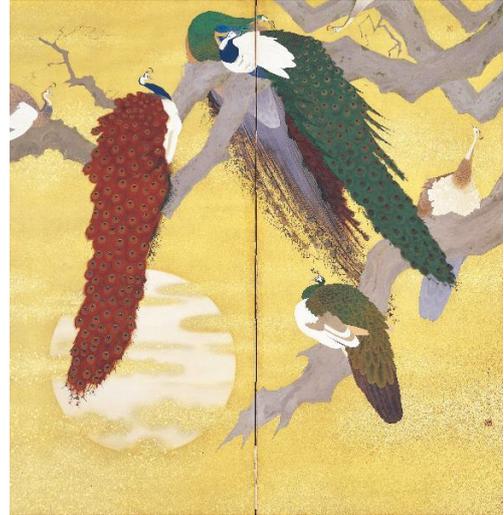


図 9 《寂光》1929 年 南砺市立福光美術館蔵

第4章 静謐なる境地へ

昭和 10 年代以降、光瑤の作風はさらに変化し、たっぷりとした余白のなかに繊細な線で花鳥を描く、端正で静謐な世界へと至ります。晩年の大作《聚芳》（1944 年、図 11）などに、その境地を見ることが出来ます。この頃の光瑤は、牡丹の写生に熱中して^{しゅうほう}いました。また、古画の嗜好が変わり、桃山時代の装飾的な障壁画から中国の花鳥画などに関心が移ったと書き残しています。光瑤の絵画は、写実の追求と優れた古画の研究によって磨き上げられていったのです。戦後まもない昭和 22 年（1947）年、光瑤は 62 歳で他界しました。



図 10 《霜月》1938 年 東京藝術大学蔵（前期展示）



図 11 《聚芳》1944 年 南砺市立福光美術館蔵

【関連イベント】 ※特に記載のあるイベント以外は申込不要

記念講演会「石崎光瑠 至高の花鳥画をもとめて—その生涯と画業—」

講師：渡邊一美氏（南砺市立福光美術館学芸員・元副館長）

日時：3月9日（日）14:00～15:30

会場：当館講堂 先着 250 名まで

館長美術講座「日本画家はなぜインドをめざすのか」

講師：木下直之（当館館長）

日時：3月2日（日）14:00～15:30

会場：当館講堂 先着 250 名まで

美術講座「光瑠が古画に学んだこと—若冲を中心に」

講師：石上充代（当館学芸課長）

日時：2月15日（土）11:00～12:00

会場：当館講座室 先着 30 名まで

学芸員によるフロアレクチャー

日時：1月25日（土）、2月11日（火・祝）、3月8日（土）、3月16日（日）いずれも 11:00～

集合場所：第1展示室（要観覧券）

〈実技室のイベント〉

実技講座 2月1、2日（土、日）対象：中学生以上

わくわくアトリエ 2月9日（日）対象：小学生から大人まで

※いずれも要申込。定員等の詳細は、1ヶ月前を目途に当館ウェブサイトまたは館内配架チラシでお知らせします。

【ご利用案内】

交通案内

- ・ JR「草薙駅」 県大・美術館口から静鉄バス「県立美術館行き」で約 6 分
- ・ JR「静岡駅」 南口からタクシーで約 20 分、または北口から静鉄バスで約 30 分
- ・ JR「東静岡駅」 南口からタクシーで約 15 分、または静鉄バスで約 20 分
- ・ 静岡鉄道「県立美術館前駅」から徒歩約 15 分、または静鉄バスで約 3 分
- ・ 東名高速道路・静岡 IC、清水 IC から車で約 25 分、日本平久能山スマート IC から車で約 15 分、新東名高速道路・新静岡 IC から車で約 25 分

ウェブサイト

<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

お問合せ先（掲載用）

静岡県立美術館 054-263-5755（代表）

このプレスリリースに関するお問合せ

静岡県立美術館 総務課 深澤 Tel. 054-263-5755 Fax.054-263-5767

学芸課 石上 Tel. 054-263-5857 Fax.054-263-5742

〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-2

生誕 140 年記念 石崎光瑤

宛先：静岡県立美術館 学芸課 薄田／総務課 深澤

E-mail：soumuPMA-shizuoka@pref.shizuoka.lg.jp

本リリースに掲載されている図 1～図 11 を広報用画像として提供します。
本票に必要な事項をご記入のうえ、上記メールアドレス宛に添付してお申し込みください。

【画像ご使用に際してのお願い】

- * 画像データはメールにてお送りします。
- * 画像は本展覧会のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 使用後のデータは破棄してください。
- * クレジットを必ず明記してください。
- * 画像への文字載せ、トリミングをする際はご相談ください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当者まで見本紙・誌を 1 部ご寄贈くださいますようお願いいたします。

貴社名： _____ 媒体名： _____

ご担当者名： _____ 発行・放送予定日： _____

T E L： _____ 発行部数： _____

F A X： _____ 定価： _____

E-mail： _____ 掲載予定コーナー名等： _____

URL(ウェブの場合)： _____

希望する広報用画像： _____

連絡欄： _____

◎本展を紹介してくださる媒体には、展覧会の招待券（5組10名様）を読者プレゼント用に提供いたします。ご希望の方は下にご記入ください。

読者プレゼント用招待券を 【希望する・しない】

招待券送付先【住所：〒 _____】

画像提供に関するお問合せ

静岡県立美術館 学芸課 薄田 Tel. 054-263-5857 Fax.054-263-5742

総務課 深澤 Tel. 054-263-5755 Fax.054-263-5767

〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-2